

順位表 6/2現在
基本 15試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	大宮	36p	+20	30	10	A●
2	沼津	25p	+9	22	13	
3	相模原	25p	+6	15	9	A△
4	琉球	24p	+3	22	19	H△
5	金沢	23p	+3	29	26	A△
6	今治	23p	-1	18	19	A○
7	FC大阪	22p	+6	15	9	A△
8	富山	21p	+1	14	13	H△
9	福島	20p	+5	22	17	H○
10	岐阜	20p	+4	22	18	---
11	長野	20p	-2	24	26	A●
12	松本	20p	-2	20	22	A○
13	北九州	18p	0	11	11	H●
14	YS横浜	17p	-5	11	16	
15	鳥取	17p	-8	14	22	
16	八戸	16p	-2	14	16	
17	奈良	16p	-3	18	21	A●
18	讃岐	14p	-5	13	18	H○
19	宮崎	13p	-6	15	21	H●
20	岩手	9p	-23	11	34	H○

次回HomeGame

第19節 vs.ヴァンラーレ八戸
6/29(土) 19:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日もここから
串かつで一杯

煮込み珍道中
串かつ

14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)

※売り切れ次第、終了です

<定休日:日曜・祝日>

TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約 10分

★
アミカ

ドミー
イン

JR
岐阜駅

通算対戦成績	全 9 試合 (J3 : 8 試合、天皇杯 : 1 試合) 岐阜 5 勝 / 沼津 1 勝 / 3 分け Jリーグ岐阜ホーム戦 : 4 勝 0 分 0 敗			
直近の対戦結果	2024/05/25 岐阜 1-0 沼津 得点者: 藤岡浩介 天皇杯 1 回戦 @メドウ			
ここ 3 試合の 公式戦の 結果	岐阜	2024/06/02 J3 - 15 節 @長良川 岐阜 1-1 琉球	沼津	2024/06/02 J3 - 15 節 @愛鷹 沼津 1-0 富山
		2024/05/25 天杯 1 回戦 @メドウ 岐阜 1-0 沼津		2024/05/25 天杯 1 回戦 @メドウ 岐阜 1-0 沼津
		2024/05/18 J3 - 14 節 @ルート F 奈良 2-1 岐阜		2024/05/19 J3 - 14 節 @愛鷹 沼津 0-0 八戸

● J3 リーグ 2024 年シーズン、開幕から好調と思われた FC 岐阜だったが、4 月から 2 か月間、リーグ戦 7 試合未勝利と急失速。6/2 (日) 第 15 節・ホーム琉球戦は、なんとしても勝利が欲しい試合だったが、序盤に 2 失点。得点を奪いたい岐阜だったがゴールネットを揺らすことができず、前半を 0-2 で折り返す。後半も岐阜が攻勢を仕掛け続けると、後半 27 分に #11 藤岡浩介のミドルで 1 点を奪うと、後半 36 分に C K から #19 松本歩夢のヘディングで同点に追いつく。その後も攻撃を続ける岐阜だったが、逆転には至らず 2-2。これで岐阜は、リーグ戦 8 試合未勝利となってしまった。

この試合で、なんとか勝ち点 1 を積み上げた岐阜の順位は 12 位から 10 位に。順位は上がったが、2 位 (= J2 自動昇格枠)・沼津との勝点差は開いてしまっている。とはいえ、その勝点差は 5。そして、沼津との勝点差 6 には 12 位・松本までが含まれているし、岐阜の勝点 3 には 15 位・鳥取までが入ってくる。まだ 1 試合の結果だけで、大きく順位が変動する位置にいる状況だ。したがって、勝利を積み重ねれば上位への道は開けてくるし、勝利がなければ順位を落としてゆく。そして何よりも、8 試合 2 か月間も (リーグ戦で) 岐阜は勝利していない苦しい状況だ。この状況を好転させるには、やはり勝利こそが最高の特效薬だ。

さて、今節の対戦相手は、アスルクラロ沼津。昨季は“ゴン中山”こと中山雅史監督の 1 年目体制で、リーグ前半戦は 4 位で折り返したものの、後半戦に勝点を積み上げることがなかなかできずに最終順位は 13 位。今季は中山監督 2 年目体制、スタッフも残留したままで選手の移籍も少なく、正に“2 年目の飛躍”を目指すシーズンだ。そして今季も序盤から好調で、現在は 2 位。ただし、先述したように沼津は岐阜との勝点差が 5 で、直近 5 試合のリーグ戦の成績は 1 勝 2 分 2 敗・3 得点 4 失点と絶好調という訳ではない。そして、岐阜と沼津は 5/25 (土) 天皇杯 1 回戦で対戦しており、1-0 で岐阜が勝利している。もちろん天皇杯とリーグ戦では各チームのスタンスが異なるために単純な比較はできないが、今の岐阜にも勝機はあるはずだ。沼津とのリーグ戦での通算対戦成績は、岐阜の 4 勝 3 分 1 敗・12 得点 8 失点。ホーム戦では 4 勝・10 得点 4 失点と岐阜が優位に立っている。昨季の 6/11 (日) 第 13 節・アウェイ戦は、多くの時間帯で沼津が攻勢だったが、岐阜の粘り強い守備で 0-0。10/8 (日) 第 30 節・ホーム戦は、試合序盤に #9 山内寛史が先制点を奪うなど、前半は岐阜が 2-0。後半は沼津の #20 川又堅基に 1 点を許してしまい、苦しい時間が続いたものの、2-1 で勝利した。今節も、難しい試合になると思われるが、何としても勝利を掴み取って欲しいところだ。

沼津で最も警戒しなければならない選手には、現在 8 得点の #27 和田育を挙げる。ただし、直近 5 試合では 1 得点。それが沼津の成績に直結していると言うこともできるだろう。彼に仕事をさせないことが、岐阜の勝利には必要だ。また、得点こそ 1 点だが、後半に投入される事が多い #20 川又の存在は不気味だし、同様に後半に投入されている J1 出場 300 試合を誇るベテラン #19 齋藤学にも要注意だ。そして、古くからの岐阜サポーターが注目しているであろう #11 染矢一樹 (09 年 ~ 13 年、通算 165 試合出場・18 得点) は、今季はわずか 1 試合 4 分の出場で、直近 5 試合はベンチ外。岐阜でルーキーとして成長した“ソメ”が、再び長良川のピッチに還ってくるかは、残念ながら少し微妙なところだ。一方の岐阜では、やはり一昨年に沼津でルーキーイヤーを過ごした #6 北龍磨の活躍、そして“恩返し弾”に期待したい。また、先述の天皇杯 1 回戦で決勝点を挙げた #11 藤岡浩介の、リーグ戦 2 試合連続ゴールにも期待が高まるところだ。

岐阜は前節の試合で追いついたとはいえ、リーグ戦 8 戦未勝利という苦しい状況に変わりはない。選手たちはサポーター以上に勝利に飢えているのと同時に、自分たちのプレーに不安を感じているはずだ。そんな彼らを鼓舞し、時には叱咤激励しながら、最後まで前向きに戦うために、僕らサポーターの応援で選手たちの背中を後押ししよう。このホームスタジアムを、拍手と声援の音で響かせ、タオマフやゲーフラで緑に染めよう。毎試合思うことではあるが、今節こそ、試合終了の後に選手たちと勝利の歓喜を分かち合い、“HYPER CHANT”を、このホーム・長良川に響かせよう。(ささたく)

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【第15節】岐阜 2-2 琉球

●傍から見れば2点ビハインドを追いついたわけだから、そこはポジティブに捉えてもいいのかもしれない。だが前半は酷い出来であった。今季ワーストを上書きしたような内容。左SBに入った生地慶充の裏を狙われるケースが多く、6分、11分と早い時間帯に2失点。一方、攻撃は丁寧繋ぎという意識が相変わらず強く、フィニッシュまで行く事ができず、数少ない決定機も枠を捉えられない有様。ハーフタイムに観戦仲間とお互い隣にいないで一人で見てたら帰りたくなるなど言い合うなど(苦笑)。

そんな試合内容だったので、余程ロッカールームで激が飛んだのであろう、後半の岐阜は戦い方を変え、早めに前にボールを送るように。これが功を奏し、琉球の脚が止まり始めボールへの対応が遅れがちになったところに藤岡浩介のゴール。石田峻真からのクロスを手トラップしてノーステップで振り幅の小さな見事なゴール。更にこの後上野輝人とイオンジェを投入。

この上野が良かった。ボールを受けたら積極的にドリブルで運んでクロスを入れてチャンスを演出。そうして得たコーナーキック、北龍磨が入れたボールを松本歩夢がヘディングで合わせて同点に。スタジアムのボルテージは最高潮に、その後も琉球ゴールに迫ったものの同点のままタイムアップ。勢いはあったけれど、そこで勝ちきれなかったのが現状の力といったところだろうか。連敗は止まったものの8戦勝ちなし状態、戦い方をアップデートしていかないことにはこの先も厳しい状態が続くのは否めない。

ところでこの試合、主審のジャッジにナーバスになって声を荒らげる人が多かった、自分の見てる近くでもそういう人の姿が。気持ちは分かるし自分も見て「？」となるケースは確かにあった。でもそんな事で荒らげる声があるのならば、その声を選手への声援や手拍子で鼓舞することに変えていきませんか？間違いなく選手たちへの力になっていくのだから。(岐阜の誇り)

●天皇杯1回戦とはいえ、同じJ3の沼津に勝利して、ようやく？何となく？暗く長いトンネルの出口が見えてきた岐阜。なのでスタメンに#14 生地慶充と#23 萩野滉大が入るのは納得なんですけど…“本職”のポジションは逆じゃないのかしら(苦笑)。昨季の#14 生地は右の“偽SB”だったし…と思っていたら、やっぱり左サイドを狙われて。最初の失点は、最後列からの縦パス1本。うーん、止められなかったかなあ…(溜息)。そして、2失点目は左サイドを侵入されて右サイドに振られて決められて。岐阜の選手たちがゴール前に固まり過ぎて、大外から入ってくる選手をノーマーク。今季はこういう、「数は揃ってるのにマークしていない」ための失点が多いように感じる。攻撃と守備のバランスは難しいと思うけれど、もう少しコーチングや運動量で改善して欲しい。そして、まずは1点獲って反撃したい岐阜だったけれど、どうにもプレーがチグハグで(溜息)。#17 田口裕也は気分十分なのは良いんだけど、シュートの時はもう少し冷静にコンパクトに足を振って枠内を狙えば、前半で追いつけたんじゃないかなあ(苦笑)。それと、改善の傾向は見られるんだけど、やっぱり後ろでショートパスを繋いで時間をロスしている場面が多い。ホーム戦なのに、そんなストレスが溜まる試合展開で前半終了。これは後半も辛いなと覚悟を決めていたら、後半からは(ロッカールームで激が飛んだかしら?)ガラリと戦術を変更した岐阜。多くの選手がボールを持ったら、とりあえず縦に運ぶ。後方から中盤でのパス回しを省略して仕掛ける。特に#6 北龍磨と#19 松本歩夢が投入されてから、その傾向が顕著になってきて、琉球との“走力勝負”の展開に。確かに陣形は崩れるからカウンターも浴びやすいんだけど、リスクをかけなければチャンスも生まれえないと思うし、パス精度が悪いんだからドリブルで仕掛けた方が可能性は高まる。それに、僕はこの戦術の方が好きだ(苦笑)。そして後半27分には#11 藤岡浩

介が振り向きざまのゴラツで1点を返し、後半36分には#6 北のCKを#19 松本がヘディングで合わせて同点。その後も押せ押せの展開なんだけど、逆転弾を決めきれないまま試合終了。うーん、試合序盤の2失点が不用意すぎたのと、後半のサッカーを前半からやっていたら逆転できたかも…と思うと、残念でならない。これからは試合開始から、こういうサッカーやってくれないかしら。そりゃ疲労度は増えるから、こんなサッカーはやりたく無いのかもしれないけれど、負け続ける試合をやるよりは、マシンじゃないかと僕は思う。(ささたく)

●日曜のナイト・ゲームとなった琉球戦。雨が降らなかったコトはありがたかった。そして、よかったのはソレだけ……になりかねないトコロを、なんとか引分けに。で、この引分けというのが、実は、琉球戦では初めての事。今までは、JFLの時を含めて6戦全勝。だからといって、調子に乗って『ダメだ、どうしても琉球から勝ち点を取ってしまう。』などと書いてしまうと、最終節に手痛いしっぺ返しを喰らってしまいかねないので、コレはナイショにしといてくださいな。

さて、上位とはいえ、特別なワケではなかった琉球の出来。でも、攻撃のセンスとか狙いとかは抜け目なく。やるコトはわかっている感ありまくりで、先制点なんかは、してやったり！なんじゃないかな？出し手は誰だ？と思ったら藤春サンか、道理で。さらに、2点目もずいぶんデザインされた攻撃だったね。ただ、ウチにもチャンスはあって、なんなら、決定機はウチのが多かったんじゃないかな？向こうは2回の決定機を2回とも決めて、ウチは4回くらいあったけど枠にも飛ばず。特に、先制された直後のヤツは、少なくとも枠には飛ばして欲しかった。

ビックリしたのは、後半始まる時の久世さんのMC。悲壮感満載に聴こえたのはボクだけなのかな？いや、納得の前半だし、2点差なら、まだ、まだ、なんとか……と思ってたんでね。でも、アレで反撃に火が点いたのかもしれない。それにしても、エースの一撃。まさに、ゴラツ！さすがの藤岡サンだったね。そして、そこからのスタジアムの雰囲気たるや。ボルテージのアガリっぷりがハンパなかった。鳥肌もん。いや、選手入場の時の肩組み『誇り胸に』から気合いが入りまくりだったけど、そこから、さらにアガるのがね。まさに、長良川劇場、復活！ただ、ゼイタクかますと、ああいう流れ、雰囲気がありながら逆転までイケないってのがね(苦笑)うーん、勝ちたかったなあ。この憂さは、次節で晴らしましょうね！(ぐん)

●前半の岐阜のサッカーは、それはもう酷いものだった。フラフラと試合に入ったところで長いのを後ろから放り込まれてスピード負けして2失点。それはいい(本当はよくないけど)。眩暈がしたのは、これまでの酷い試合と同様、「ボランチを起点に左右にパスをまわしていれば相手の守備は『自然と』崩れてくれる」という思い込みで試合を進めていたように見えたことだ。ときどきギアを上げて縦に速いのを入れてワンツーで崩しに行くシーンもあったし、それで崩せるシーンもあった。しかし攻撃陣が自ら得点のカオりに消臭剤をかけるようなフィニッシュでは。

後半になって、岐阜は縦に入れるパスが目に見えて増えだし、「相手が整う前に前進」を意識したシーンも増え、琉球の選手の脚も止まったことで一気に攻勢に。北→石田→コースケの反転ゴラツ、CKからアユちゃんが合わせて同点。その後も攻勢は続くもののゴールは割れず。

そりゃ同点になったんで盛り上がりはしたけど、全然納得出来ない。前半(の酷さ)は、なんだったの。いつまで「パスで崩し切らないとシュートに行かないリスク回避の安全第一スタイル」の『様式美』に固執するの。まさか、後半のギアチェンジをより効果的にするために、前半は『様式美第一優先』の酷いふりをしていた……とかの高度な戦術だった、とか？それならそれで納得するしかないけど、せめて『酷いふり』の時間帯も無失点でお願いします。(吉田铸造)